



### 経験を生かした手術で 患者の早期復帰を目指す

眼科の中でも特に医師の技術が重要となるのが、網膜剥離や糖尿病性網膜症、黄斑円孔といった網膜硝子体疾患への手術だ。網膜が一度損傷した網膜が二度と回復しないだけに、的確な診断や正しい治療選択、正確な手術が求められる。生野恭司院長は、大阪大学病院や国立大阪病院などに在籍してきた25年間を通じ、網膜硝子体手術を含めた数多くの手術に携わってきた経験を持つ。それに基づく、高度な眼科手術に特化した施設と



## 先進医療実施施設 いくの眼科

### 患者に身近な施設でありつつ 網膜硝子体疾患、強度近視などの 幅広い眼疾患に先進的な手術を

して開院されたのが、いくの眼科だ。「手術の提供とともに大切なのは、患者さんの話を聞き、説明することです。それらの時間を十分に確保するため、極限まで効率の良い体制の実現を目指してきました」

として、生野院長はスタッフが診察や手術に専念できる環境作りを徹底してきた。提供する手術の内容も大病院と遜色ない。同院では、特に難易度の高い糖尿病性網膜症を含め、すべての網膜硝

子体疾患に対して、日帰りでの手術を実践。その技術を白内障手術にも役立てており、難治症例や網膜硝子体疾患との同時手術を積極的に受け入れている。注目すべき点は、術後の早期社会復帰まで視野に入れていることだ。例えば、網膜剥離では従来は2週間の入院を要するケースもあったが、同院では特殊なシリコンオイルを併用した手術で、2〜3日で日常生活に戻ることが可能になっている。それが早期離床につながることから、高齢者の寝たきり防止のためにも重要になるといえる。こうした、術後の生活まで配慮で



院長 生野 恭司

いくの・やすし ●1990年、大阪大学医学部卒業。国立大阪病院(現・国立病院機構大阪医療センター)勤務、大阪大学医学部眼科講師などを経て2015年より現職。大阪大学招へい教授、金沢大学臨床教授、日本近視学会副理事長、日本強度近視眼底研究会代表世話人など。

## 何でも相談できる、身近な眼科

### あさいアイクリニック

〒661-0033 兵庫県尼崎市南武庫之荘1-19-26 サークルビル3階  
阪急神戸線「武庫之荘駅」より徒歩1分  
TEL.06-6423-8871 <https://asai-eye.com/>

いくの眼科の関連施設として開院されたのが、あさいアイクリニックだ。浅井智子院長も眼科手術の経験を重ねてきた医師であり、中でも眼瞼下垂や睫毛内反、腫瘍といった眼瞼手術を数多く実施。「まぶたが目の表面を保護する組織であるため、より目に優しい手術で、働きを改善させるよう心がけてきました」として、細心の注意を払って手術を進めているという。院内では、地域住民の幅広い眼疾患を診て、必要に応じて他施設とも連携して対応。いくの眼科と同様、子どもの重度近視を防ぐ治療にも力を入れる。2018年1月からは眼瞼下垂・白内障の日帰り手術を院内でも開始する予定。「当院では何でも相談できる眼科として、高度な手術すべてを提供するいくの眼科と役割分担をしていきたいと考えています」と浅井院長は語る。



院長 浅井 智子



患者が納得できるよう、丁寧な説明を心がける

きる施設は決して多くはない。  
**強度近視の治療や予防に  
積極的に取り組む**

生野院長は、手術の実践に加え、研究においても実績を挙げてきた。特に近視治療では有数の実績を挙げており、国内外での学会発表も積極的に行っている。その知識が実際の治療にも生かされ、しばしば見過ごされがちな、網膜疾患を原因とする強度近視を正しく診断し、手術で改善したケースも数多い。加えて力を入れているのが強度近視の予防だ。「特に子どもで強度近視を引き起こすケースが結構



院内には最新の検査機器が揃う

見られます。そこまで進行する前に抑制することが大切なのです」と生野院長。手段の一つが、低濃度アトロピンの点眼治療。同時に、就寝中に角膜を矯正するオルソケラトロジーも近視の進行抑制につながるから、積極的に取り入れているという。  
生野院長が常に心がけるのは、高度な医療の提供と、患者にとっての安心感・身近さの両立だ。その姿勢のもと、眼疾患に悩む患者を一人でも多く救うことを目指している。

取材／鈴木健太

※自由診療・オルソケラトロジー 15万円